

# 山口 博幸先生を送る

経済学部長  
阿部 文雄

山口博幸先生は、平成16(2004)年3月31日をもって、本経済学部を定年により退官されました。先生は、本学部にご着任以来、35年の長きにわたって労務管理および人的資源管理の研究教育を続けてこられました。香川大学は、先生の在職中の多大なご功績に対して本年4月に香川大学名誉教授の称号をお贈りしました。

先生は昭和15(1940)年4月に長崎県南松浦郡(五島)玉之浦にお生まれになり、長崎県立諫早高等学校を経て、昭和37年4月に香川大学経済学部に入學されました。そして、昭和41年3月に同学部を卒業後、1年間香川大学経済学専攻科で研鑽を積み、昭和42年4月に神戸大学大学院経営学研究科修士課程に進學され、昭和44年3月に修士課程修了後、同年4月に香川大学経済学部助手に就任されました。その後、昭和45年6月講師、昭和48年7月助教授、昭和58年8月教授にそれぞれ昇任されました。

先生のご専門は労務管理および人的資源管理です。これらの分野において、「企業戦略論と戦略的人的資源管理－戦略的人間資源管理に関する実証研究のための文献レビュー」「戦略的人間資源管理の有効性－四国地方の機械工業を対象とした実証研究－」など多数の著作を發表され多大の貢献をされました。とくに人的資源管理論の分野において、その先駆的研究が学会等で高く評価され、『戦略的人間資源管理に関する組織論的研究』によって平成8年に神戸大学より博士(経営学)の学位を授与されました。

教育面においても、先生は、本学部経営システム学科所属の教官として、「経営管理論」「労務管理論」「人的資源管理論」などを担当され、経済学部学生および大学院学生の教育に大きく貢献されました。先生の講義は、経済学部の多

くの学生が受講する科目であり、また先生のゼミナールは夜遅くまで熱心な議論が続くことで有名でした。先生の教えを受けた多くの卒業生が、公務員、金融業、製造業など多くの分野で活躍しています。先生の教育に対する姿勢は、人間を中心においておられました。先生は、最終講義で、人間は本来自己中心的なものであるが、学問研究を通じて、自己中心的存在から脱皮できると説いておられました。先生らしい教育に対する厳しさと熱意を感じました。

先生は、管理運営面でも、香川大学のために労力を惜しまず多大の貢献をされました。平成7年から通算約6年半評議員として香川大学のために尽力されるとともに、香川大学将来構想委員会委員、同人文・社会科学独立研究科設置構想委員会委員、大学院経済学研究科運営委員会委員、予算委員会委員、図書館委員会委員、研究教育委員会委員など多くの委員を歴任されました。特筆すべきは、大学設置基準大綱化以後の教養教育実施体制の再構築にかかわる先生の多大の貢献です。先生は、平成9年に教養教育実施委員会委員に就任後、同10年4月から2年間教養教育主管として香川大学大学教育開発センターの設置に尽力されました。そして、平成14年4月には、当時の近藤浩二香川大学長に請われ、香川大学大学教育開発センターの初代センター長に就任されました。さらに、香川医科大学との統合に際し、センター長として新大学での教養教育体制の制度設計に手腕を発揮され、香川大学教養教育の基本方針である「全学出勤方式」が堅持されました。

このほか、地域社会に対する貢献として、通商産業省、香川県、四国生産性本部等に関連した多くの調査研究に携わられ、また『かがわの中小企業と組合』などに企業経営や現代の社会現象、人材育成、人間や社会、大学のことなど幅広いトピックについて多くの寄稿や随筆を書かれています。

このように多方面でご活躍された先生が本学を去られることは、私どもにとって大きな痛手です。しかし、幸いにも、先生は高松に近い岡山の地で教育・研究を続けられると聞いております。今後ともわたしども後進のためにご指導・ご鞭撻下さいますようお願いするとともに、先生のますますのご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。